



坂上遺跡出土の土偶が国の重要文化財に指定へ

◆富士見町の新たな宝

富士見町坂上遺跡から出土した土偶について、国の文化審議会は国重要文化財に指定するよう文科相に答申し、官報告示のあと、正式に国重要文化財として指定されます。富士見町の考古資料では、平成14年に国重要文化財に指定された藤内遺跡の出土品199点について、2件目となります。

この土偶は、昭和49年に落合地区の坂上遺跡で発掘されました。遺跡は縄文時代中期後半（およそ4000年～4500年前）の単純集落で、上手に3軒、下手に5軒の住居跡があり、その中間に8基ほどの墓と配石が設けられていました。その1つの墓穴の上面から、首と胴と腰以下の3つに分かれた状態で発見されました。そしてこれに伴うようにして、打製石器や石片、小石、土器片が出土しました。

右足を欠くものの、高さが23センチと大きな部類に属す佳作品です。そして先のとがった腕を横に広げ、脇の下から脇腹にかけては細密な文様が刻まれています。股から尻、そしてうなじには別な文様が施されています。

この種の形の土偶は、中部高地を中心として西関東と東海北部から北陸西部にまで広範囲に分布しています。いまのところ、坂上のものに比肩するほどの完整品は見当たりません。すると、この土偶は中期後半の地域にあって頂点に立つ作品と思われる。

こうした評価を得て指定された土偶は、4月21日から5月10日まで東京国立博物館で一般公開ののち、井戸尻考古館で展示します。「富士見町の新たな宝」を見に、皆様ぜひ足をお運びください。



姉妹町 西伊豆だより

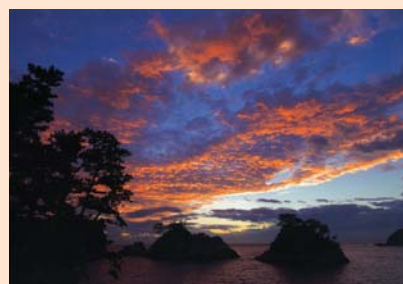
第10回ふるさとフォトコンテスト 入賞作品 決定！

「夕陽のまち西伊豆町ふるさとフォトコンテスト」審査会が2月20日に行われ、夕陽部門で「夕暮れ」、ふるさと部門は「春漁にいそしむ」がグランプリを受賞しました。

今年で10回目を迎えるフォトコンテストには、毎年町内の写真愛好家のもとより東京都や神奈川県など県外からも多数の応募をいただき、審査会では各部門のグランプリ、特選、入選、佳作が選ばれます。

今年度、夕陽部門のグランプリ「夕暮れ」は堂ヶ島の夕景を、またふるさと部門グランプリの「春漁にいそしむ」は、黄金崎周辺の春に行われるひじき漁の様子を撮影した作品です。作品は今後、ポスターや毎年好評をいただいている町民カレンダーなどに活用される予定です。

フォトコンテストは平成27年度も開催される予定です。富士見町の皆さんの、多数応募をお待ちしております。



▲夕陽部門グランプリ「夕暮れ」



▲ふるさと部門グランプリ「春漁にいそしむ」

富士見町民憲章

わたくしたちは、秀麗富士を望み、雄大な八ヶ岳と眺望豊かな入笠山にいだかれた高原の町、富士見町民です。この限りなく美しく、厳しい自然の中に住むわたくしたちは先人の心を受けつぎ、自然を愛し、豊かな調和のとれた田園の町の発展をめざして、この町民憲章をかかげます。

- 一 かけがえのない自然を守り、育てていく町民となろう。
- 一 心身を鍛え、明るく健康な町民となろう。
- 一 教養を高め、香り高い文化を創造する町民となろう。
- 一 仕事に誇りを持ち、産業の発展につくす町民となろう。
- 一 思いやりの輪をひろげ、住みよい郷土をつくる町民となろう。